市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－①	商工観光産業支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－オ 産業間連携の強化
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24年度～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

村内における商工業の総合的な改善発展、地域ブランド化の構築に資する観光振興、リピーターをターゲットとしたパンフレットの作成、村内体験プログラム実施者と連動した民泊受入の組織運営、実施を行うと同時に、人材育成に係る講習会等を島外専門家と連動し、入域観光客数増加並びに村内受入者の人材育成をする。

実施方法

□直接実施　□委託　□補助　■負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	969	13,447			
	(b)予算現額	969	12,101			
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 1,346			
	(d)繰越額	―	-			
	A. 計(b+d)	969	12,101			
B. 執行済額		969	3,777			
うち交付金充当額		775	3,021			
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%	31.2%			

予算の状況の説明：・当初計画内に計上していた予算額に対し、観光振興に資する部分を精査した。その際、事務職員の賃金が当初予定していた採用人数を募集、面接を行ったものの、観光振興に資する人員が確保できず、精算を実施した。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・民泊事業当講習会の開催:年2回 ・自然・歴史・伝統文化等を細分化した観光パンフレットの発刊	目　標	（　―　）	（年2回 1, 000部）	（　）	（　）
	実　績	―	年3回 5, 000部		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：接遇セミナー等は委員会開催に連動して実施。民泊事業講習会は受入民家の要望が受入実施の回数が増えるに伴い反響も大きくなり、最終的に当初目標としていた回数を上回った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
・民泊事業当講習会の開催:年2回 ・自然・歴史・伝統文化等を細分化した観光パンフレットの発刊	目　標	（　）	（　）	（年2回 1, 000部）	（　）	（　）
	実　績		―	年3回 5, 000部		
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：ツアー会社との連携、村が主体により実施する企業研修当の補助、小学生受入を積極的に実施し、511名の入村受入に直接的･間接的に関わった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・宿泊事業者と民泊事業実施民家とのコンセンサス、情報共有がもっと密に必要であった。(村内の経済活性化という目的の共有) ・民家間の受入の質の均一化(差があるよう見受けられる) ・ツアー会社との連携の際、村の魅力を前面に出せるような工夫 ・県内全域で体験型旅行が広まっており、それ以外のニーズに対しての対応。(企業研修等)	・受入民家の許可の拡充 ・体験メニューの多様化に向けての資源をブラッシュアップ ・受入者が共通して活用できるマップないしはブックの制作 ・ホームページ等SNSを活用した村の情報発信 ・他団体との更なる綿密な連携 ・事務局の受け入れ体制の強化

今後の取り組み方針

・観光振興に必要な団体の育成はもとより、情報発信の強化、安定した質を提供できうる旅行メニューの確立、オーダーメイド可能な旅行プランニング等時代のニーズ、情報を敏感に感じ取り、メニューに落とし込むことが出来る組織作りと同時に、入客受入に対しリスクマネジメントの確立。他団体との連携強化、受入実施の際のブレンディング力の向上のため適宜講習、事前勉強会、事後報告会振り返りを実施

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,447	3,777	3,021	756	9,670

伊平屋村
3,777千円
→
負担金
3,777千円
→
伊平屋村商工会
総額：3,777 千円

事業者向けセミナー相談会の実施
接遇セミナー等の開催：年4回
民泊事業講習会の開催：年3回
に係る経費

交付対象外経費
9，670千円
内　本事業に係る受益者負担分
945千円
本事業以外の経費
8，725千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受益者(商工会）の負担については,対象額の20％を負担している。 ○費目使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の各提示に於いて支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－②	観光地イメージアップ推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24～平成33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	魅力的な観光地づくりの推進を目的とし、海浜、道路、公園など観光客が利用する公共施設等の美化、清掃や花木の植栽などを実施する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	15,650	15,563			
	(b)予算現額	15,612	13,084			
	(c)増減額(b-a)	▲ 38	▲ 2,479			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	15,612	13,084			
B. 執行済額		15,612	13,084			
うち交付金充当額		12,489	10,467			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			

予算の状況の説明：当初計画していた事業内容は、全て実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
観光アクセス道路の美化清掃	目　標	(　29．5Km　)	(　29．5km　)	(　　)	(　　)
	実　績	29．5Km	29．5km		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：村内にある名所や旧跡の観光名所の他、県道や村道の清掃や草刈りをすることで観光地としての維持管理だけでなく、イメージアップも図られた。また、地元への貢献や雇用の面からも大きな効果がでている。

(平成25年度　採用人数　15名)　　(作業期間　平成25年4月16日～11月30日)

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
観光アクセス道路の美化清掃	目　標	(　0　)	(　29．5Km　)	(　29．5km　)	(　　)	(　　)
	実　績		29．5Km	29．5km		
【参考指標】	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：本事業の実施により、村内の各名勝、旧跡、観光施設等の維持が図られ、観光地としてのイメージアップも図られている。また、同事業による地元貢献や雇用の面からも効果がでていることから妥当であると考える。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	今年度は、主にアクセス道路や、観光施設等の清掃、草刈り等が主な業務であった。それについては、村民や観光客等からの反応も良好である。しかし、各施設における美化整備については、人手不足等の問題もあり定期的な整備が行えない状況である。	これからは、そのような観光施設の美的環境の整備にもリンクする形で植栽やそれらの維持管理等も定期的に行っていく必要があり、村民が景観に対する意識の向上になるよう、繋げていきたい。

今後の取り組み方針

同事業の継続により、島の景観等に対する村民の意識の向上が図られることや、産業の乏しい離島村の雇用等の創出についても大きく寄与すると思量されることから事業を継続し、島の観光復興につなげていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,084	13,084	10,467	2,617	0

伊平屋村
13，084千円

→ 賃金
11，684千円
→ 清掃作業員賃金
11，684千円
［清掃作業員にかかる作業賃金（15名分）］

→ 使用料及び賃貸料
25千円
→ (株)風希ネットワーク
（重機等リース料）
25千円
［清掃作業にかかる油圧ショベル及び2tダンプ等の使用料］

→ 需用費
1，375千円
→ ［清掃、草刈り作業に係る消耗品費や燃料代（約12，681ℓ］
［清掃作業にかかる草刈り機の刃や熊手等の作業に必要な消耗品費の他、作業車や草刈り機等の燃料代］

資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・本事業における清掃作業員の雇用等については、村内における失業者を対象として募集していることで、村経済の活性化の観点から大きく寄与している。 ・本事業で購入している消耗品等については、作業上必要な物であるのため、妥当であると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－③	誘客イベント推進事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－３－（１２）－ア 観光リゾート産業の振興
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成24年度～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（1）
事業内容	本村の観光振興及び年間を通じた安定的な集客を図ることを目的とし、各種観光イベントを強化して実施する。また、いへやまつり及び伊平屋ムーンライトマラソンを実施する団体への支援を行う。				
実施方法	□直接実施　■委託　■補助　■負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	27,610	21,240			
	(b)予算現額	17,194	23,192			
	(c)増減額(b-a)	▲ 10,416	1,952			
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	17,194	23,192			
B. 執行済額		15,883	23,192			
うち交付金充当額		12,706	18,553			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		92.4%	100.0%			
予算の状況の説明		・各件数に対し適宜執行を行っている。とりわけ、伊平屋ムーンライトマラソン（1000万）、いへやまつり(250万）の予算執行が多い。今後は、金額的には、少額であるが、様々なイベントを実施しているイベントの精査を行い、村の実情に見合うイベントを実施したい。				

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
集客イベント開催実績 イベント開催件数：12件	目　標	（　10件　）	（　12件　）	（　　）	（　　）
	実　績	14件	16件		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：・昨年度を踏襲したイベントについては、事業スキームの振り返り等の精査、運営費の見直しを必ず実施し、予算の圧縮を奨励し、予算残にて新たなイベントを実施したい団体よりヒヤリングを行い、イベント回数を増やした。

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
集客イベント開催実績 イベント開催件数：12件	目　標	（　0　）	（　10件　）	（　12件　）	（　　）	（　　）
	実　績		14件	16件		
【参考指標】入域観光客数	目　標	（　　）	（　1.7千人　）	（　1.7千人　）	（　　）	（　30千人　）
	実　績		1.8千人	1.8千人		

進捗状況説明：・33年度入域観光客数3万人を目標に現在様々なイベント実施している。今後も村の実情を勘案し、様々なイベントを実施しながら持続可能なイベントを精査して残していく

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・補助するイベントは年々増加していくものの、入域観光客数は微減となった。村内は自然環境をフィールドとしたイベントが多いため、海上気象が悪化した場合、並びに長雨が続いた場合、入域観光客数減に直結する。また、村と沖縄本島を繋ぐフェリーの料金も近隣村に比べ、距離があるため、料金が割高となっており、近隣市町村をイベントがブッキングしている場合、入域観光客数が伸びない状況である。村内のメインフィールドである自然環境に依存するスタイルは普遍的に変更することはないので、今後は、魅力あるイベント並びに商工会や他団体と連携して、伝統文化も視野に入れたイベント実施も検討したい。	・村内受託者のスキルアップ ・島外受託者と島内受託者との連携 ・今後は、近隣市町村とも連動した(ツールド沖縄等広域でのイベント実施）も視野に入れたイベント実施 ・ムーンライトマラソン等は人気イベントであるが、過去に1，800名の受入を行ったため、水事情の問題もあり、現在の募集人数1，200名にて実施している。こそを基準にトレイルランやアドベンチャーレースを企画できないか調整したい。

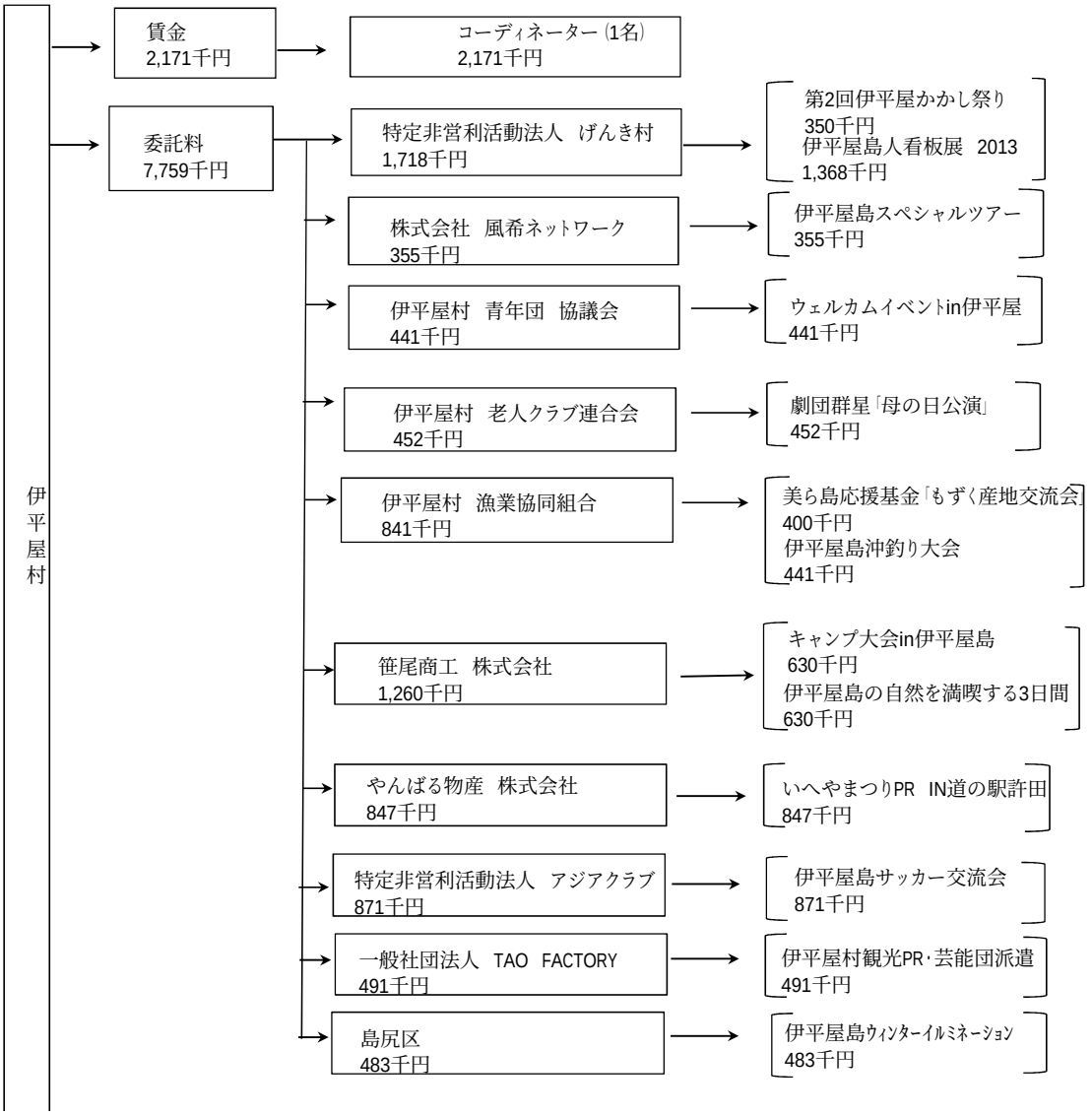
今後の取り組み方針

・村の実情・自然・環境・伝統文化にマッチングするイベントの模索並びに既存イベントの実施に際し、顧客満足度の向上を図りリピーターの確保に努める。次年度は26年度はムーンライトマラソンが20回記念大会を迎えるため、それに関連した、イベントも可能か検討したい。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
23,192	23,912	18,553	4,639	



負担金･補助金
13,262千円

→ いへやまつり実行委員会
2,500千円 → 第25回いへやまつり：2,500千円
※魚のつかみ取り、花火渡船料、協力依頼発送料、ポスター他

→ 伊平屋ﾑｰﾝﾗｲﾄﾏﾗｿﾝ実行委員会
10,000千円 → 第19回伊平屋ﾑｰﾝﾗｲﾄﾏﾗｿﾝ：10,000千円
島外ｽﾀｯﾌ航走料、広告業務、完走ﾒﾀﾞﾙ、ｽﾃｰｼﾞｱﾄﾗｸｼｮﾝ他

→ 三村交流実行委員会
762千円 → いいな運天港いちゃり場まつり：762千円
※出演料、賃借料

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時に於いて支出等に関する書類により確認、適正であった。 受益者負担においてもﾑｰﾝﾗｲﾄﾏﾗｿﾝの実行委員会負担額についても6割強の負担を行っており妥当
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－④	観光情報発信強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(12)－ア
					観光リゾート産業の振興
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24年度～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

村の観光イメージ戦略の一つとして、各ターゲット層を分類した、観光ポスターを刷新、観光カレンダー、葉書等を制作し、TPOに応じた使い分けを行い、冬芽へ情報発信し、観光客誘発につなげる。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,800	4,300			
	(b)予算現額	4,800	4,300			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	4,800	4,300			
B. 執行済額		3,827	4,300			
うち交付金充当額		3,061	3,440			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		79.7%	100.0%			

予算の状況の説明：・村内の観光資源(原風景)を通年かけて中学生が撮影。その素材を元にポスター、カレンダー、ポストカードを製作

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・村のPRカレンダー:200部 ・ポストカード:2400枚 ・ポスター:500部	目　標	（　－　）	（・村のPRカレンダー:200部 ・ポストカード:2400枚 ・ポスター:500部）	（　）	（　）
	実　績	－	カレンダー1,500部 ポストカード16,800枚 ポスター1,250部		
	目　標	（　－　）	（　－　）	（　）	（　）
	実　績	－	－		

達成状況説明：当初計画していた事業内容は全て実施した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
・村のPRカレンダー:200部 ・ポストカード:2400枚 ・ポスター:500部	目　標	（　）	（　）	（・村のPRカレンダー:200部 ・ポストカード:2400枚）	（　）	（　）
	実　績			カレンダー1,500部 ポストカード16,800枚 ポスター1,250部		
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：当初計画していた事業内容は全て実施した。又、発刊物に関しては、本年度は完成までのスキームであり、次年度以降、島外でのイベント等を媒体として、村の情報発信を実施する。
配布予定箇所:コープネット事業連合(新潟、長野、群馬、栃木、茨城、千葉、埼玉、東京生協。組合員数420万人)で実施するフェア、コープおきなわで開催されるイベント等

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本村中学生が公益財団法人　沖縄県立芸術大学学術振興財団に技術指導を頂き、日々の生活の中に埋没している素材の収集を行った。それにより、完成後は、発刊物はストーリー性を持ち、紹介しやすくなるという効果が期待できる。又、村内の生徒が地域資源の掘り起こし行うことにより、中学校卒業後親元を離れる「島発ち」後のｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨの確立にも寄与した。今後は、同事業で撮影した素材を更新する際の調整が必要	・配布場所の検討 （道の駅、ｺｰﾌﾟﾈｯﾄ事業連合、ｺｰﾌﾟおきなわ等に於いて、ｲﾍﾞﾝﾄ開催時情報発信予定であるが、国外での配布が可能か要調整が必要）

今後の取り組み方針

・現在、沖縄県においても積極的に海外旅行者の誘客を実施しているものの、現在本村においては、韓国の観光客が不定期で来島するものの、英語圏の観光客の来島が少ない状況である。今後は、沖縄観光コンベンションビューローや島外ツアー業者と連携し、同発刊物を東南アジアの英語圏にも設置できるよう調整する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,300	4,300	3,440	860	

伊平屋村 → 委託料 4,300千円 → 公益財団法人 沖縄県立芸術大学学術振興財団 4,300千円

委託内容
・伊平屋村の原風景、観光資源をPRするカレンダー・ポストカード・ポスター制作を対象とする。
装丁等

発行回数　1回
発行部数　カレンダー1，500部(B2サイズ)
ポストカード16，800枚
ポスター1,250枚(A1サイズ)
掲載写真　カレンダー6点以上・ポストカード12点以上・ポスター2点以上

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	支出先の選定方法　：　本事業の委託業務については、村内において、以前から村内の写真撮影を授業の一環として実施していて村内の継承地及び撮影スポットを熟知している県立芸術大学と契約することで、村内児童生徒にとって年齢層の近い大学学生スタッフとのコミュニケーションが図れること、撮影専門業者より安価な価格での契約が可能なことから県立芸術大学との随意契約は妥当と考える。 予算規模　：　予算規模については、事業の内容及び発刊物等の規模から適正と考える。 費目・使途　：　事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑤	観光推進計画策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－イ 市場特性に対応した誘客活動の展開
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	村のマスタープランである「第4次総合計画」に連動したアクションプラン「観光推進計画」策定し、今後の伊平屋村の観光指針を確立させ、入域観光客数増加を目指す。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況 (a)当初予算額	9,400				
予算の状況 (b)予算現額	6,884				
予算の状況 (c)増減額(b-a)	▲ 2,516				
予算の状況 (d)繰越額	－				
予算の状況 A. 計(b+d)	6,884				
B. 執行済額	6,884				
うち交付金充当額	5,507				
次年度繰越額					
執行率（%）(B/A)	100.0%				
予算の状況の説明	･本村の持つポテンシャルを村内外より様々な角度で抽出を行い、計画策定を実施し冊子にした事を鑑み適正であったと考える。 ･減額に関しては、策定員開会催時、島外委員会の日程不調による不参加並びに審議会同日開催等による予算の圧縮				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
「観光推進計画」の策定	目　標	（　策定　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	策定			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：村のマスタープランである「第4次総合計画」策定後村の目指す方向性として「島の宝を生かし、地域が主体となった観光･交流産業の振興」を目指すこととなった。他方、アクションプランの「観光総合計画」が平成16年3月を最後にリニューアルされておらず、時代のニーズや、情報社会の波にまいぼつしている状況である。そこで今回、新たな「観光振興総合計画」を策定し、時代のニーズと村民のニーズを十分に検証し、指し示されている「島の宝を生かし、地域が主体となった観光･交流産業の振興」を村民全体にで実施する。
審議会2回、策定委員会5回開催

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
「観光推進計画」の策定	目　標	（　）	（　策定　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		計画書100部 概要版300部			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：当初、目標年度33年度は3万人を目標として設定していたものの、同計画の審議会、策定委員会等で協議を重ね、「持続可能な観光」を目指す方向性より、2万1千人に修正がなされた。今後は、「ムーンライトアイランド」関連商品･サービスの開発･体験学習･修学旅行の誘致等をニーズに合った施策を積極的に実施していく。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	･現在の村民のニーズ、観光客のニーズの抽出 ･地域の将来に対して各事業所参集メンバーで情報を共有化する。 ･地域が目指す未来の目標について共通認識と方向性を見いだす。 ①自然環境保全について ②特産品について ③伝統行事の保全伝承について ④体験交流型旅行の担い手について ⑤飲食店のサービス向上について ⑥情報発信について ⑦入域観光客数の目標について 等を協議する際、鳥瞰的な見方と、主観的な見方を混在させないように留意して協議した。	･計画の反映に資する団体への啓蒙活動 ･計画を各種団体に冊子で配布しした。(簡易版も含む) 今後は、機会あるごとに、同資料を参考にした勉強会を開催し、関係団体とのコンセンサスを持つ会議が必要である。

今後の取り組み方針

前述でも一部述べたが、適宜関係団体と同計画を活用した会議を実施し、村観光振興に適宜活用する

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,884	6,884	5,507	1,377	

伊平屋村 6,884千円

- 委託料 6,250千円 → 委託：協同組合　沖縄産業計画
  - 伊平屋島観光振興総合計画策定業務
    委託内容：伊平屋村の観光誘客目標の設定
    伊平屋村観光の現状把握
    島内外の観光事業者への意識調査
    現在の伊平屋村観光振興総合計画の検証
    伊平屋村の観光の課題
- 報償費 370千円
  - 策定委員会5回開催
    委員26名分
    審議会2回開催
    委員6名分
- 旅費 261千円
  - 島外委員の参集旅費
- 需用費 3千円 → ガムテープ代
  ※森林資源を活用する予定であったため、林道内に植物の名称張り出しに使用

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	村内で、県内外に全般で同様の計画を策定実績がある企業を5社絞り込み企画提案書を村審議会に於いて審査。村の実情を勘案した方向性、計画を策定した業者と契約使途については事業目的達成の視点から必要なものなのか等について書類精査を行い適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－①	堆肥利用促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ウ 農林水産物の安全･安心の確立
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成２５～２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)
事業内容	堆肥の利用促進による地力向上と減農薬化による農産物のブランド化を目指し、既存の堆肥生産施設の機能強化を実施する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	21,356				
	(b)予算現額	2,000				
	(c)増減額(b-a)	▲ 19,356				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	2,000				
B. 執行済額		2,000				
うち交付金充当額		1,600				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初計画において、堆肥攪拌機等の堆肥生産機械の購入を計画していたが、農家及びJAとの機種調整において、時間を対やしたことや、機械製作が年度内に間に合わない等の諸事情が発生したため、今年度予算での購入が出来ない状況になった。そのため、今年度は、施設利用計画等及び翌年度からの堆肥生産に係る原料等の回収業務を実施した。予算の減については補正及び流用による減額。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
堆肥センターの機能強化及び製造機械の更新等堆肥攪拌トラクター１台購入	目　標	（　1台　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	ー			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：堆肥センターについては、全体調査検討を行い堆肥攪拌機戒を購入し、堆肥の生産を予定していたが、堆肥攪拌機種選定に時間を要し、又機械については、受注製造となり、期間を要するため計画を年度内に遂行することは困難となった。

成果目標(指標)及び進捗状況

		基準値（23年度）	25年度	26年度	27年度	目標値(33 年度)
堆肥センターの機能強化による堆肥の安全生産による農地還元等のよる反収の増	目　標	（　2．2t　）	（　3．4t　）	（　）	（　）	（　4．0t　）
	実　績		2．8t			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：堆肥センターについては、全体調査検討を行い堆肥攪拌機戒を購入し、堆肥の生産を予定していたが、堆肥攪拌機種選定に時間を要し、又機械については、受注製造となり、期間を要するため年度内納品が困難となったため、年度何実施可能な原料のスットク及び堆肥センター全体基本計画策定業務委託を実施した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・今年度は、堆肥センターの機能強化及び製造機械の更新等堆肥攪拌機械を発注する予定でいたが、機種選定に時間を要し、年度内納品が困難となった 。今後、社会情勢を把握し、発注から納品までの期間を確保することで健全な事業遂行を図る必要がある。	・実施計画を遂行するため、平成２６年度は、堆肥攪拌機械の機種選定及び早急に発注することで堆肥の生産を実施し、農地へ還元することで生産の向上を図れるよう改善していく。

今後の取り組み方針

堆肥センターの機能を早期に確立するため、堆肥攪拌機械の発注と納品を早め、堆肥の生産に努めると同時に、農地へ還元、農業生産物の反収アップ、所得の向上を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,000	2,000	1,600	400	

伊平屋村
２，０００千円
→
委託費
2,000千円
→
(株)シビルエンジニアリング
１，１１８千円
［ 伊平屋村堆肥センター全体基本計画策定業務委託 ］

→
（株）風希ネットワーク
８８２千円
［ 伊平屋村堆肥センター原料回収委託 ］

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約理由について、契約業者は、現在本村において、土地改良等設計業務及び現場技術業務等を手がけている。そのため、施設整備計画の策定時の調整及び村内の現状把握においてたけていることからこの業者と契約することにより計画の早期策定及び諸調整において円滑に業務遂行が出来ると思慮される。また、原料回収委託については、契約業者が村内に活動していること及び回収に係る重機等を保有する業者であり、業務が円滑に遂行出来る。 ○費目･使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	ー	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－②	病害虫防除事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ウ 農林水産物の安全･安心の確立
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)
事業内容	作物の生産性の向上と農家所得の向上を目指し、さとうきびの収量低下の原因となっている病害虫の被害を防ぐため防除駆除を実施する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,000	10,750			
	(b)予算現額	1,600	10,164			
	(c)増減額(b-a)	▲ 3,400	▲ 586			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	1,600	10,164			
B. 執行済額		1,600	10,164			
うち交付金充当額		1,280	8,131			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		不要額が５８６千円発生しているが、備品購入費の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
防虫剤(フェロモン剤)散布	目　標	(　149ha　)	(　150ha　)	(　　)	(　　)
	実　績	149ha	150ha		
ラジコン自動噴霧機	目　標	(　　)	(　2台　)	(　　)	(　　)
	実　績		2台		

達成状況説明：さとうきび病害虫(イネヨトウ)異常発生により、さとうきび単収が減収傾向となっているなか、フェロモンチューブ設置交信攪乱による病害虫(イネヨトウ)被害の軽減及び、ラジコン自動噴霧機の導入による防除作業向上を行うことで、病害虫(イネヨトウ)発生が抑えられている。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
病害虫防除等によるさとうきび生産量の安定化	目　標	(　　)	(　4, 000t　)	(　4,700t　)	(　　)	(　　)
	実　績		2, 373t	1,985t		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：
･広範囲での防虫剤の設置がより効果的となるため、面積の増加を行い、目標も達成することが出来た。
･病害虫防除によるさとうきび生産量の安定化を図ったが、干ばつ被害により減産となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・さとうきび生産の安定化成果目標には届かなかったものの、他被害によるものであり、病害虫（イネヨトウ）被害は減少傾向にある。 ・病害虫（イネヨトウ）防除フェロモンチューブ剤の設置は個体数が増加する2～3月に行っているが、夏季に設置できないか要望がある。	・病害虫（イネヨトウ）異常発生時に比べ個体数は減少傾向にあるため、フェロモンチューブの設置による交信撹乱及びラジコン自動噴霧機による防除作業を行うことで、継続実施する。 ・夏場の設置は台風等によるフェロモンチューブ剤への風害等の影響が懸念されるため、夏場はラジコン動噴機による防除作業で対応する。

今後の取り組み方針

フェロモンチューブ設置交信撹乱は、直接病害虫（イネヨトウ）個体数を減少させるものではないため、継続し、又、ラジコン自動噴霧機による防除を行い、病害虫（イネヨトウ）の発生予防をし、被害防止を実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,164	10,164	8,131	2,033	0

伊平屋村
10，164千円

→ 委託費
7，550千円 → 沖縄県農業協同組合 伊平屋支店 ﾌｪﾛﾓﾝﾁｭｰﾌﾞ設置委託 7，550千円
［・ﾌｪﾛﾓﾝﾁｭｰﾌﾞ購入費］

→ 備品購入費
2，614千円 → ヤンマー沖縄株式会社 2，614千円
［ラジコン自動噴霧機　2台］

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○支出先の選定方法については、委託費については作業内容について、ほとんどが人力作業であり、地元農家の協力により作業を計画していることから、地元農家との関わりの大きいJA伊平屋支店を選定した。また、備品購入に係る受注業者については現在村内において、月3回～4回程度定期的に農機具のメンテナンス作業を行っている業者で有り、購入した機械の不具合等の発生に早急な対応が可能なことから、農作業の効率化が図れることから選定は妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－④	特産品販路拡大推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－イ 流通･販売･加工対策の強化
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)
事業内容	島で生産されるモズクや黒糖関連商品、魚類燻製製品やその他加工品の販路拡大を目指し、島外で販売促進やイベント等への出展を支援する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	7,686	10,900			
	(b)予算現額	7,666	10,013			
	(c)増減額(b-a)	▲ 20	▲ 887			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	7,666	10,013			
B. 執行済額		7,666	9,682			
うち交付金充当額		6,133	7,745			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	96.7%			
予算の状況の説明		不要額が887千円と発生しているが、県外イベント(新潟)の際、台風の影響により当初予定参加者の減による旅費であるため、当初予定していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であると考える。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
島外(県外)イベント出展参加	目　標	(　3回　)	(　3回　)	(　　)	(　　)
	実　績	3回	4回		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明
- ･県外イベント(千葉･新潟)参加及び島外イベント2回の実施により、県内外企業での販路拡大に繋がった。
- ･黒糖ソフトクリーム･黒糖アイスクリーム･黒糖あずきアイスクリームの3商品の開発を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
島外(県外)イベント出展参加	目　標	(　　)	(　3回　)	(　3回　)	(　　)	(　　)
	実　績		3回	4回		
【参考指標】	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明
- 県外イベント(新潟、千葉)参加及び島外イベント2回の実施を行い、目標以上の成果を達成した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・県外、島外イベント参加により販路拡大を行い、県内外企業での販路を確保できる状況まで行くことができたが、農水産業の不作により原料等の確保が厳しい状況となったため、需要への対応を改善していく必要がある。	・需要の対応について、農家、漁家の意識の改善と営農計画等の見直しによるそれら品目の安定的な生産をしていくことにより活性化を図っていく。

今後の取り組み方針

県内外のイベントへの出店及び販路拡大を3回以上実施する。また、1商品以上の商品の開発を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,682	9,682	7,745	1,937	

- 伊平屋村 9，682千円
  - 委託料 720千円
    - 株式会社やんばる物産センター 特産品等販売委託 580千円 ［黒糖ソフトクリーム等販売委託］
    - 伊平屋村舞踊団 ステージ出演委託 100千円 ［県内イベント時におけるステージ出演委託業務］
    - フリーアナウンサー イベント司会委託 40千円 ［県内イベント時における司会委託業務］
  - 備品購入費 5，481千円
    - アゲダ空調食品設備株式会社 5，481千円 ［黒糖ソフトクリーム製造機械3台 黒糖アイスクリーム収納機械2台］
  - 旅費 2，869千円 ［県外イベント参加旅費 新潟 1，191千円 10名分 千葉 1，678千円 24名分］
  - 事務費 450千円 ［県内外イベント参加に係る経費（需用費）］
  - 報償費 162千円 ［県内外イベント参加に係る経費 報償費 イベントアトラクション（青年エイサー）参加者 10名］

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○支出先の選定方法については、受注業者については現在村内スーパー等において、月4回程度定期的に冷凍機器等のメンテナンス作業を行っている業者で有り、購入した機械の不具合等の発生に早急な対応が可能なことから、地域住民や観光客のニーズにスムーズな対応が出来ることから妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑤	魚類養殖場機能強化助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－(7)－カ 亜熱帯･島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備
担当部課名	伊平屋村農林水産課	事業実施(予定)年度	平成25年度～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(6)

事業内容	ヤイトハタの品質向上と安定生産を図るため、近年、県で開発された「ヤイトハタ高密度養殖」の技術活用を実施するに当たり海水ブロワー等の増設を図る。
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	36,000				
	(b)予算現額	36,000				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	36,000				
B. 執行済額		36,040				
うち交付金充当額		28,832				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.1%				
予算の状況の説明		･当初、補助金として伊平屋村漁協に交付し、漁協が工事実施する予定であったが、漁協側より工事遂行業務が困難であるとの申し入れがあり、検討した結果、計画変更し伊平屋村が工事及び先進地視察を実施し年度内完了した。 ＊沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所については、事業計画の記載は誤りでり当シートの記載が正しい。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
養殖場内海水ブロワーの増設、海水ポンプの機能強化	目　標	（ブロワー13機設置 海水ポンプ2機）	（　）	（　）	（　）
	実　績	ブロワー12機設置 海水ポンプ2機			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	･今回、海水ブロワー及び海水ポンプ等を強化したことにより、生け簀内の飼養尾数は稚魚で6，000尾から8，000尾と増えた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(27年度)
養殖場内海水ブロワーの増設、海水ポンプの機能強化	目　標	（　）	（ブロワー13機設置 海水ポンプ2機）		（　）	（　）
	実　績		ブロワー12機設置 海水ポンプ2機			
【参考指標】 ヤイトハタ出荷量	目　標	（ヤイトハタ出荷15t）	（ヤイトハタ出荷15t）	（　）	（　）	（ヤイトハタ出荷20t）
	実　績		ヤイトハタ出荷15t			

進捗状況説明	･今回、海水ブロワー及び海水ポンプ等を強化したことにより、生け簀内の飼養尾数は増えたが、その成果が現れるのは稚魚から成魚に成長するまでの間、2年程度掛かる。よって、成果として現れるのは平成28年頃である。

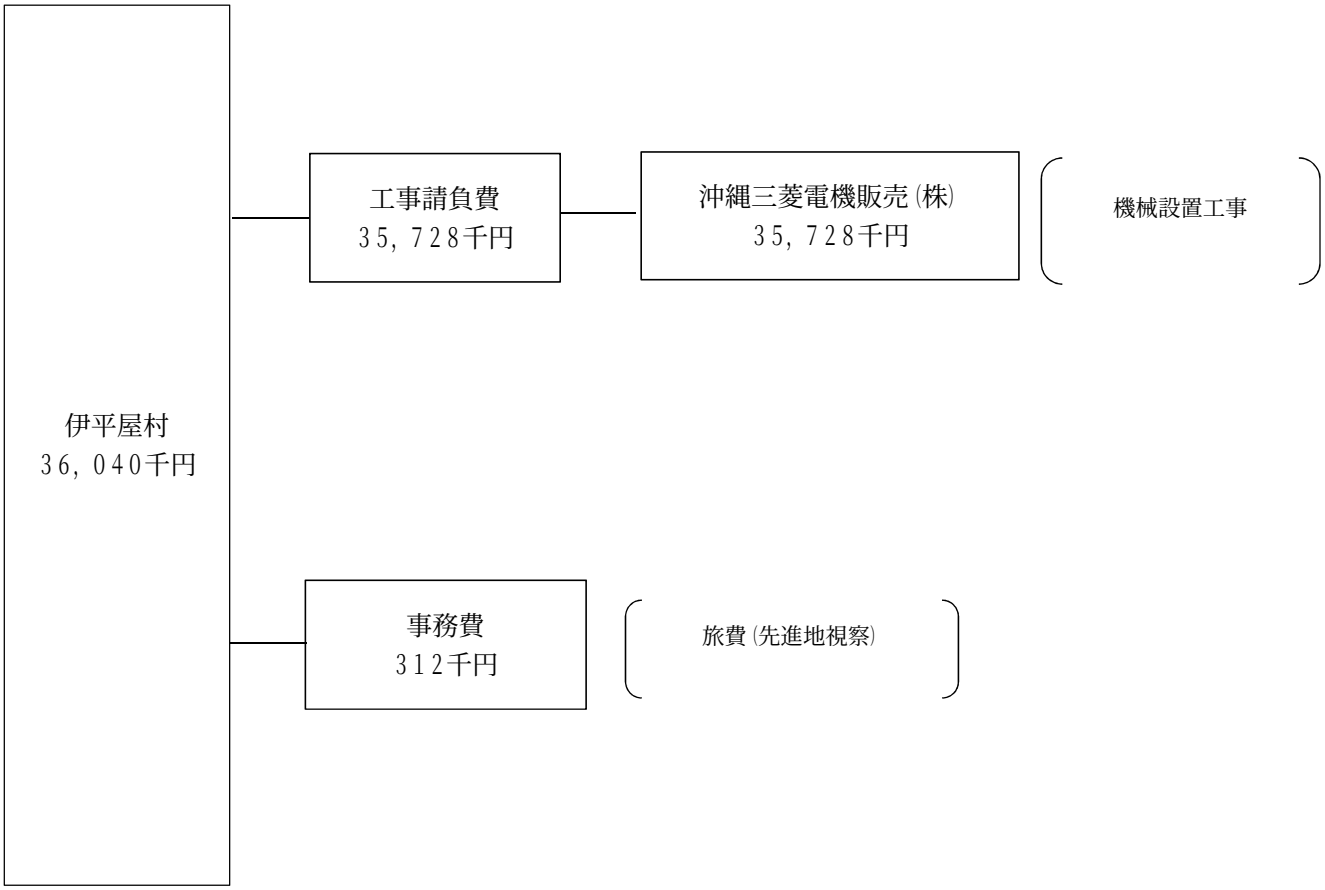
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・当初、事業計画では村より伊平屋村漁協へ補助金交付し伊平屋村漁協主体による工事発注、先進地視察等を計画し要望していたが、漁協の職員不足及び現担当の者の工事発注未経験等の理由から村側に計画変更の申し入れがあった。 ・ブロワーや海水ポンプの機能強化を図った結果、各生け簀内の酸素濃度・水質が改善され、各生け簀での飼養尾数は確実に増やせるが、飼養尾数を増やし出荷量を増やすことと、あえて少ない尾数で余裕をもって飼育した場合の成長スピード短縮による出荷回転率とを比較し、検証する必要性がある。	・漁協の計画変更を受け、村で協議した結果、村が主体となり工事発注等を実施することに変更した。 ・現在、開いている生け簀に既存の１．５倍に増やした種苗と既存どおりの種苗数の２種類の生け簀に分け成長スピードの比較検証を図る。 ・ヤイトハタが稚魚から出荷サイズに成長するまで約２年～３年程度掛かることから、陸上養殖の利点である生残率を生かし中間育成後、海面養殖業者への出荷することも可能である。

今後の取り組み方針

・生け簀内の酸素濃度及び水質が改善されたことにより、各生け簀での飼養尾数が増やせるので、以前の２倍、稚魚を導入している。今後、生け簀の状態を把握しながら成魚の飼養尾数を増やして行く。また、陸上養殖の利点である生残率が良いことから中間育成後、海面養殖業者に出荷することも可能となる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
36,040	36,040	28,832	7,208	



資金の流れ、費目使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・工事請負費は、指名競争入札により落札者と契約した。 ・事務費（旅費）先進地視察は、村の旅費規程により適正に行い、目的に有った視察を実施した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑥	ヤイトハタ等県外出荷検証助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－カ 亜熱帯･島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備
担当部課名	伊平屋村農林水産課	事業実施(予定)年度	平成25年度～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容

昨今、注目されつつあるヤイトハタ等の県外出荷に伴う品質劣化による鮮度低下を防ぐため、急速凍結機をリースし、実施検証を図り販路促進の拡大を図る。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,200				
	(b)予算現額	2,200				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	2,200				
B. 執行済額		2,200				
うち交付金充当額		1,760				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：事業計画どおり、補助金として伊平屋村漁協に２２０万円を交付し、実績報告書等を精査した結果、適正に執行されている。＊沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所については、事業計画の記載は誤りでり当シートの記載が正しい。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
急速冷凍機のリース検証	目　標	（冷凍機リース 6ヶ月）	（　）	（　）	（　）
	実　績	冷凍機リース　3ヶ月			
販路促進･販路拡大	目　標	（島外イベント参加）	（　）	（　）	（　）
	実　績	島外イベント参加　2回			
実証検証の実施	目　標	（検証実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	検証実施			

達成状況説明：･急速冷凍機をリースし、ヤイトハタの冷凍セミドレス(鱗と内蔵を除去した状態)の鮮度保持及び品質向上が可能か検証を図り、併せて県外食品会社(銀座アスター食品(株))やイベント等での消費者への販促活動を実施した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値(27年度)
急速冷凍機で処理された製品と通常凍結の製品との品質劣化及び向上比較検証によるデータ把握	目　標	（　）	（データ検証）		（　）	（　）
	実　績		データ検証実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：･今回の検証により、伊平屋村漁協が目標としているヤイトハタの年間出荷量20tを可能にするには活魚出荷以外にも冷凍出荷を如何に増やすかが課題としてあり、急速冷凍機の購入は必要不可欠かと思われる。、

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ヤイトハタの出荷は主にセミドレス（鱗と内臓を除去した状態）及びフィレ等（三枚におろした状態）で出荷されているが、通常の冷凍保存では、品質劣化が激しく県外等への出荷は鮮度を長く維持出来ないことから出荷する製品はあるが、消費者の手元に届くまで数日要する現状では厳しい状況である。	・小型急速冷凍機を3ヶ月間リースし、ヤイトハタをセミドレス・フィレ状態にし既存冷凍機で冷凍した場合と急速冷凍機で冷凍した場合を比較した。両方のサンプルを県外料理店数店舗にて鮮度状態（見た目・保存期間・味等）について検証を実施した。

今後の取り組み方針

・実施検証から、急速冷凍することにより作業時間通常8時間が30分に短縮及び鮮度保持による安心・安全な商品を消費者へ供給出来ることを踏まえ、中型程度の急速冷凍機購入も検討したい。急速冷凍機を購入することにより、ヤイトハタ以外の鮮魚や海産物の出荷も可能となり、ひいては漁家の経営安定に繋がる。また、販促活動により、ヤイトハタに興味を示した業者と綿密な調整を図り取り引きを実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,200	2,200	1,760	440	0

伊平屋村 2，200千円 → 補助金 2，200千円 → 伊平屋村漁業協同組合 2，200千

（賃金・機械使用料・旅費・備品購入費等）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・備品購入について、当初予定していた以外の機器が購入されているが、事業目的に合致しているため適正と判断した。 ・受益者負担は行っていない。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑦	輪作･転作等促進農業用排水施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－カ 亜熱帯･島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備
担当部課名	伊平屋村農林水産課	事業実施(予定)年度	平成26年度～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容	台風等の風災害により、減少した2期作農家を支援するため、輪作･転作が可能な水田排水施設の整備を行う。また、輪作･転作による農家主体の集団営農化を目指し課題の抽出と行動計画を定めた事業推進計画を策定する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,000				
	(b)予算現額	2,679				
	(c)増減額(b-a)	▲ 321				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	2,679				
B. 執行済額		2,679				
うち交付金充当額		2,143				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初計画の見積価格より安価な価格での委託発注が出来た。予算残については補正による減額。 ＊沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所については、事業計画の記載は誤りでり当シートの記載が正しい。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
地域農林水産物生産計画策定	目　標	（　策定業務　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	策定業務			
販売計画策定	目　標	（　策定業務　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	策定業務			

達成状況説明：本事業において、転作･輪作が可能な水田排水施設等の整備については実施することができなかったが、地域の現在の営農の現状を調査することにより、地域の営農状況がより明確化した事で、地域の営農計画をどのように組み立てていくのか地域協議会等で話し合いをした。課題として調査結果を踏まえ、今後の地域の集団営農化に向け取り組み等について大いに活用していく。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23　年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(33年度)
地域農林水産物生産計画策定	目　標	（　）	（策定業務）	（　）	（　）	（　）
	実　績		策定業務			
販売計画策定	目　標	（　）	（策定業務）	（　）	（　）	（　）
	実　績		未策定			

進捗状況説明：今年度の業務において、営農等計画が策定されたことで、農家の農業経営及び輪作･転作への意欲の向上が図られた。今後は、地域の協議会活動をより強化し、地域の営農の在り方について地域の結集力を図り、農家主体の集団営農化を目指していく兆しが見えてきた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	農家の高齢化及び後継者不足による農業の衰退が懸念される中、当計画での経営診断が出来たことで、夏期の台風や干ばつに対応できる作物の選定や施設園芸などによる若者の参入しやすい環境整備ができることで、後継者問題等の解消が期待できる。 これまで、個々による営農、作物体系が確立している。今後、地域の中心となる経営体への農地の集積や作物の選定、共同作業や防除等について、どのように計画していくか課題もある。	農家の高齢化及び後継者不足による農業の衰退が懸念される中、作物の選定や施設園芸の導入による新規就農者参入がしやすい環境整備ができることで、後継者問題、新規就農者の参入による担い手不足の解消が期待できる。また、農家主体による集団営農化を目指すことで、農地の利用計画を策定し、作物の選定に応じた共同作業（防除作業等）確率し、農地の集積を図ることで作業効率及び経費の削減による地域の所得の向上を図る。

今後の取り組み方針

経営診断を実施した結果を踏まえ、地域が抱える課題として、農家の高齢化と後継者不足、小規模経営、農地の分散、個別農家による農業機械の保有など課題は山積している。このような課題を解消するため、地域農家及び地権者の結集力を強め、農地の集約化、作物の選定及び作付け計画、共同作業、農業機械の大型化による作業の効率化など、地域農家が主体となり協議を重ね、経費の削減を目指し、農家所得の向上を図るため、強力なリーダーシップのもとで農業団体組織を立ち上げ地域農家の体力強化を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,679	2,679	2,143	536	0

伊平屋村 2，679千円 ― 委託料 2，679千円 ― (株)経営戦略オフィス 2，679千円 （輪作･転作等促進計画策定業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地域の営農計画等を調査し、集落営農の精通している委託業者と随意契約とした。 ○費目･使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	ー	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑧	林産副産物生産支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－カ 亜熱帯･島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備
担当部課名	伊平屋村農林水産課	事業実施(予定)年度	平成２５～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)
事業内容	新たな産業として林産副産物(木炭･シイタケ等)の生産支援を行い雇用の創出と新規特産物の開発を目指す。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	12,000				
	(b)予算現額	1,000				
	(c)増減額(b-a)	▲ 11,000				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	1,000				
B. 執行済額		1,000				
うち交付金充当額		800				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初、新たな産業として林産副産物(木炭･シイタケ等)の生産支援と雇用の創出を計画していたが、林業従事者との調整が付かず当初計画より予算減額し実施を図った。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
林産副産物精算施設整備(椎茸等)	目　標	(椎茸栽培施設1棟)	(　)	(　)	(　)
	実　績	施設予定地の周辺整備のみ			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：予定していた林業従事者が工事請負業務についており、雇用賃金等が想定していた金額と大きくかけ離れていることから、雇用条件の折り合いが付かず椎茸栽培施設の整備には至らず施設予定ほ場の周辺整備等を普通作業員を雇用し行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(28年度)
林産副産物精算施設整備(椎茸栽培施設1棟)の完了	目　標	(　)	(椎茸栽培施設　1棟)	(　)	(　)	(　)
	実　績		施設予定地の周辺整備のみ			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：･林業従事者を雇用すると言う当初の目的からは、若干ずれてしまったが、今回、赤土流出防止対策を想定して植付したベチベル種苗が26年度後半頃には分けつし、株分け生産出来ることから村の農林水産課(土地改良担当)とタイアップすることにより、林業従事者の所得安定に繋げることが出来る。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・当初、計画していた椎茸等栽培施設の整備は予定していた林業従事者との雇用条件の折り合いが付かなかったことから、整備には至らなかったが、ほ場周辺整備を実施したことにより今後も様々な種苗生産を実施し、林業従事者の所得安定に繋がる芽だしが出来た。 ・今回、林業従事者に提示した雇用条件は、村建設課の緊急雇用事業の賃金等を参考に提示したが、現在の村の雇用状態が飽和状態にあることから、雇用条件の見直しが必要かと考える。	・村の農林水産課及び建設課から、事業に用いる様々な種苗の生産依頼があり、シイタケ栽培以外の種苗生産も併せて実施する必要が有る。 ・造林事業や観光事業で植栽される村花のツツジや村木のビロウ等の種苗生産を行うことで林業や景観に関連する周知を図る。

今後の取り組み方針

・林業従事者と雇用形態・雇用期間の調整を図り、関連業務が継続して従事出来るように関係機関と調整を図る。
・平成２６年度事業を取り下げしているが、林業従事者が現在、工事請負に従事しており雇用条件の改善を図らなければ、雇用が厳しい状況である。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,000	1,000	800	200	0

伊平屋村
１，０００千円

賃金
３７８千円
（作業賃金（種苗植付等）６人＊９日～１２日）

使用料
６２２千円
（施設ほ場の石礫除去のための重機使用料）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	支出先の選定方法 ： 作業員については、村民に対する雇用の場の創設を考慮した上で村民よりの採用した。 予算規模 ： 作業量及び日数などを顧慮し決定しているので適正である。 費目・使途 ： 事業目的に即し真に必要なもので限定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	伝統文化継承支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(1)－ア 地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)

事業内容

島への誇りと愛着を醸成し、次世代を担う健全な人材を育成するため、社会教育の一環として伝統文化、伝統芸能について、老人会等との連携による課外講座を実施する。

実施方法

■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,090	7,687			
	(b)予算現額	1,340	16,360			
	(c)増減額(b-a)	▲ 750	8,673			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	1,340	16,360			
B. 執行済額		1,340	15,859			
うち交付金充当額		1,072	12,687			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100%	96.9%			

予算の状況の説明：当初、想定していた「第1回伊平屋村芸能まつり」開催関係経費がプログラム内容の精査により、活動内容が増大し、併せて必要経費が増額となったことから、当初予算より予算減額が増額となった。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
伝統文化の日の制定 伝統文化学習講座の開催:11教室／11回	目　標	(11講座(11回))	(11講座(11回))	( )	( )
	実　績	16講座(11回)	15講座(11回)		
	目　標	( )	( )	( )	( )
	実　績				

達成状況説明：毎月第3水曜日を伝統文化の日と定め、民具作りや三味線教室、方言教室等、さまざまな伝統文化、芸能に親しむための講座を15講座開講した。また、伝統文化の保全活動を広く地域住民へ周知し、主体的な取り組みとなるよう、有志による民俗芸能保存会を発足したほか、情報発信や郷友会とのつながりの強化策として島外での「第1回伊平屋村芸能まつり」を開催し、保全活動と併せて、地域住民の島への愛着と誇りの醸成に資する取組を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
伝統文化教室の参加者	目　標	(0講座(0回))	(11講座(11回))	(11講座(100名))	( )	(14講座(11回))
	実　績		16講座(11回)	15講座(120名)		
伝統文化保存会発足	目　標	(0)	(0)	(1組織(26名･7回))	( )	(1組織(26名))
	実　績			1組織(26名･7回)		
島内外における伝統芸能祭の実施	目　標	(0)	(0)	(1回)	( )	(2回)
	実　績			1回		

進捗状況説明：継続的な伝統文化活動の日の実施により、参加者数が目標を上回った。また、計画的に伝統文化保存会を発足出来たほか、島外での伝統芸能祭の実施し、郷友会を含めた島外との連携強化や、地域住民の伝統文化に対する機運の醸成に寄与できた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○講座内容によっては、必要備品（音源や再生機器）や消耗品を必要量確保する必要がある。 ○多様化する講座の種類や、ニーズの高い講座への講師の割り当てや人材確保が必要となっている。 ○事業効果の客観指標として、発表会やコンテストの開催等、技術向上や気運の醸成に向けた取り組みが必要とされている。	○各講座の実施計画について講師陣と密な連携を図る必要がある。 ○さらなる人材確保に向けて実施内容や取り組みの情報発信を強化する。 ○総体的な取り組みとなるよう、ゴールイメージの共有化と地域住民を含めたキャンペーンや、イベントの企画運営を行う。

今後の取り組み方針

○平成26年度も引き続き事業を推進し、今年度に設立した民俗芸能保存会を中心に、島外にて初開催となった「第1回伊平屋村芸能まつり」で得た運営ノウハウや、気運の醸成を今後さらに継承、発展させるため、いへやまつりやムーンライトマラソンでの出演機会を確保し、さらなる伝統文化の掘り起しと実践研究を推進していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,359	15,859	12,687	3,172	500

伊平屋村
15,859千円

- 報償費 759千円 → 伝統文化教室講師 759千円
  （伝統文化教室にかかる講師報償費（講師15名））
- 需用費 443千円 → 消耗品 443千円
  （伝統文化教室開催に係る消耗品）
- 使用料及び賃借料 272千円 → 施設使用料 272千円
  （伝統文化教室の開催に係る会場使用料）
- 補助金 14,385千円 → 芸能保存会・5集落支部 14,385千円
  （交付対象害経費500千円）

芸能まつりの開催に係る開催補助金
①芸能保存会：6,625千円（まつり開催補助金）
②田名支部：6,150千円（衣装・小道具・音響整備）
③前泊支部：350千円（衣装・小道具整備）
④我喜屋支部：340千円（衣装・消耗品）
⑤島尻支部：920千円（衣装・小道具）
⑥野甫支部：500千円（衣装・消耗品）
合計：14,885千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については事業主旨に鑑み、推進基盤となる芸能保存会とその傘下の各支部に限定しており、妥当であったと考える。△島外での初めての芸能まつりの開催については、取組内容や演目等、保存会や郷友会との協議により、当初計画より実施内容が増大したほか、参加者数の増加や関係機関等との調整によって経費が増大したため、当初予算より予算現額が増加したため、当初の予算規模を上回った。 ○費目・使途については事業目的に即した経費ついて支出し、補助対象外経費は受益者負担としたことから適正であったと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－②	特別支援教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア 確かな学力を身に付ける教育の推進
担当部課名	伊平屋村教育委員会	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)

事業内容	本事業は、各小中学校にある特別支援学級に支援員を配置し、個々にあったきめ細かい学習支援を図る。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,348				
	(b)予算現額	1,709				
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,639				
	(d)繰越額	－				
	A．計(b+d)	1,709				
B．執行済額		1,709				
うち交付金充当額		1,366				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初計画では2名配置であったが年度途中より1名となたったため、9月補正により1,641千円を減額した。事業内容については活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
支援員の配置:伊平屋小学校(特別支援学級)1名	目　標	(　)	(　1名　)	(　)	(　)
	実　績		2名		
支援員の配置:伊平屋中学校1名	目　標	(　)	(　1名　)		
	実　績		0名		

達成状況説明	中学校においては、必要とされる人材が確保できず、通級を希望する生徒について引き続き学校現場との協力のもとに取り組んだほか、小学校において特に学習支援が必要とされる児童へきめ細かな支援体制が構築された。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(29年度)
支援対象児童生徒・伊平屋小学校(特別支援学級):4名	目　標	(　0名　)	(　4名　)	(　)	(　)	(　1名　)
	実　績		4名			
支援対象児童生徒・伊平屋中学校2名	目　標	(　0名　)	(　2名　)	(　)	(　)	(　1名　)
	実　績		0名			

進捗状況説明	伊平屋小学校において4名の支援対象児童に対し、学習支援や生活指導を行い、発達段階に応じた指導と問題行動の抑制に努め結果、学習規律の習熟に効果があった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	支援員に対する研修や指導・助言を行うとともに、学習到達度の低い児童生徒への保護者理解等、支援が必要とされる対象児童生徒の学習環境の改善強化へ向けた取り組みについて、研究授業やスクールカウンセラーと保護者を含めた就学支援委員会での検証が必要と思われる。	支援が必要な児童生徒に対応するため、保護者や学校現場との密な連携や協力体制を構築する必要があることと、多様化する特別支援、学習支援の在り方について村就学支援委員会での事業の検証を行うとともに、地域や家庭を含めた支援体制の在り方を検討していく必要がある。

今後の取り組み方針

平成26年度も引き続き事業を推進し、支援が必要と思われる児童生徒に対して学校現場や専門家（スクールカウンセラー）との連携を密にし、保護者の理解、協力体制を推進するとともに、支援員の適正配置とスキル向上のための指導、助言を行い、対象児童生徒へのきめ細やかな支援を充実強化する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,709	1,709	1,366	343	0

伊平屋村
1,709千円

→ 賃金 1,709千円 → 支援員賃金 1,709千円

（学習支援員の配置に係る臨時職員賃金：2名）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については支援員を教員免許保有者として選定したことから妥当であったと考える。 △当初計画では2名配置であったが年度途中より1名となたったため実施額が減額し、当初の予算規模より下回ったが、支援員の適正配置の見直しによるものであることから、予算執行については適正に執行されたと考えている。 ○受益者との負担関係においては、登下校や学校行事等の際に保護者のサポートを求めるなど連携を密にしたことから妥当であったと考える。 ○費目や使途についても事業目的に即した人件費のみの支出であることから、妥当であると考えている。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-③	英語学習支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)

事業内容	グローバルな時代に適応できる国際性豊かな人材を育成するため、小中学生を対象としたイングリッシュキャンプの開催による動機付けや、本村の中学生を海外に派遣し、異文化体験する機会を与え、将来の本村及び地域社会へ貢献できる人材の育成を図る。
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,450				
	(b)予算現額	1,909				
	(c)増減額(b-a)	▲ 541				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	1,909				
B. 執行済額		1,402				
うち交付金充当額		1,121				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		73.4%				

予算の状況の説明	当初、計画していたイングリッシュキャンプが、予定参加者数を下回ったため、9月補正により事業費を減額した。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
海外短期留学の実施	目　標	(　1回　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	1回			
夏休みイングリッシュキャンプの開催	目　標	(　1回　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	1回			

達成状況説明	海外短期留学について、7月から8月にかけて3名の村内中学生を米国に派遣したほか、8月初旬に伊平屋イングリッシュキャンプと称した英語学習スクールを小中学生17名を対象に1泊2日の日程で実施した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(　年度)
･海外短期留学 ･ムーンライトマラソン等ボランティア協力及び実践発表会開催	目　標	(　0　)	(　1回(3名)　)	(　)	(　)	(　1回(3名)　)
	実　績		1回(3名)			
･夏休みイングリッシュキャンプ ･実践発表会開催	目　標	(　0　)	(　1回(40名)　)	(　)	(　)	(　1回(40名)　)
	実　績		1回(17名)			

進捗状況説明	･海外短期留学について選考試験を行い計画通り3名の中学生を派遣し、ムンライトマラソンのボランティア参加や12月に開催した実戦発表会において成果を発表した。その結果、2名の生徒は留学後英検3級を取得した。 ･イングリッシュキャンプについては、夏休みに実施したが、島内行事との重複から開催期日を変更した結果、島外へ出かける児童生徒が多く計画参加者数を下回った。しかしながら、12月に開催した実戦発表会では英語での寸劇に取り組むなど、英語学習に意欲的に向き合うようになった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○海外短期留学では語学力もさることながら、海外での生活に順応出来るような精神面の強化や生活指導等を行う必要がある。 ○児童生徒の英語学習における習熟度の発表の場が、島内だけでは限定的であることから、より効果的で児童生徒の関心度や向上心を高めるような取り組み方策が必要とされる。 ○イングリッシュキャンプの実施時期が夏休みであることから、児童生徒への周知徹底と保護者への説明会を早期に行う必要がある。	○生徒への指導のあり方として学校･家庭･地域･行政が一体となった協議会の中で、学力向上や生活支援、情操教育を徹底して行う。 ○英語習熟度を高めるための実践発表会等の実施数を増やすほか、英語検定試験の受験について推奨を行う。 ○イングリッシュキャンプ参加者の増加や実施内容の充実を図るため、英語講師の獲得に向け関係機関との連携強化を行うとともに、児童生徒や保護者への呼びかけを学校現場と連携して行う。

今後の取り組み方針

○平成26年度も引き続き事業を推進し、学習規律や英語教育のさらなる充実をはかり英検3級取得者の増加を目指す。
○児童生徒の英語学習への関心度を向上させるため、英語スピーチコンテストへの参加推奨や、英会話教室への積極的な参加を促す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,909	1,402	1,121	281	507

伊平屋村
1,402千円

- 報償費 97千円 → 講師報償費 97千円
  （イングリッシュキャンプ開催に係る講師報償費（講師2名･補助員2名））
- 旅費 37千円 → 費用弁償 37千円
  （イングリッシュキャンプ開催に係る講師費用弁償（1名））
- 使用料及び賃借料 76千円 → ㈲風希ﾈｯﾄﾜｰｸ 76千円
  （イングリッシュキャンプ開催に係る会場使用料
  実施場所：いへや愛ランドよねざき（キャンプ場）
  支出先：㈲風希ネットワーク（指定管理者））
- 委託料 1,192千円 → ㈱タイムスサービスセンター 1,192千円
  （海外短期留学派遣業務委託費 3名分）
  （交付対象外経費507千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
#	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村内では有人キャンプ施設が1カ所しか無く、いへや愛ランドよねざきでのイングリッシュキャンプの実施は妥当であったと考える。また、海外短期留学の委託先は豊富な業務実績と留学前後の事前、事後指導を含めた委託内容から妥当であったと考える。 △：予算については当初のイングリッシュキャンプ参加人数を確保出来ず、実施額が減額となった。 ○短期海外留学においては事業費の30%を受益者が負担したことから妥当であったと考える。 ○費目･使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－①	幼稚園預かり保育支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(2)－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	伊平屋村教育委員会	事業実施(予定)年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容	伊平屋島の定住条件を整備するため、幼稚園預かり保育強化として嘱託保育士を配置する。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,700	1,750			
	(b)予算現額	1,250	1,693			
	(c)増減額(b-a)	▲ 450	▲ 57			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	1,250	1,693			
B．執行済額		1,250	1,693			
うち交付金充当額		999	1,354			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
嘱託保育士の配置:1名	目　標	(　1名　)	(　1名　)	(　　)	(　　)
	実　績	1名	1名		

達成状況説明	本村、伊平屋幼稚園において平成25年4月から平成26年3月の期間、保育士1名を配置した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
預かり保育対象児童数:6名	目　標	(　0名　)	(　5名　)	(　6名　)	(　　)	(　10名　)
	実　績		5名	6名		
					(　　)	(　　)

進捗状況説明	･6名の預かり保育対象児童に対して預かり保育を実施し、目標を達成した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本事業の実施により、預かり保育に対する住民意識が向上し、今後もニーズが高まることが予想されることから、児童の増加による安全対策や、用具の整備が必要になると思われる。	増加する児童数に対応するため、学校現場との密な連携や協力体制を構築する必要があることと、多様化する保護者ニーズに対する事業の検証と対応策について保護者との協議の場を増やしていく必要がある。

今後の取り組み方針

平成26年度も引き続き預かり保育を継続し、対象児童の増加については、適正なスタッフの配置や管理体制について適時検証を行うとともに、保護者ニーズに対応するための遊具や玩具の適正な整備計画を行う。
また、保護者を含めた協議会を設置し、情報の共有化と相互理解を深める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,693	1,693	1,354	339	0

伊平屋村
1,693千円

→ 賃金
1,693千円

→ 保育士賃金
1,693千円

（嘱託保育士の配置に係る臨時職員賃金：1名）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－②	妊婦健診渡航費助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(11)－イ 生活環境基盤の整備及び教育･医療･福祉における住民サービスの向上
担当部課名	住民課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容	妊婦健診の受診促進として、通院に要する船賃、宿泊費等を助成する。
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,000	2,000			
	(b)予算現額	923	2,849			
	(c)増減額(b-a)	▲ 2,077	849			
	(d)前年度繰越額	－				
	A. 計(b+d)	923	2,849			
B. 執行済額		923	2,849			
うち交付金充当額		738	2,279			
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		実績値において当初見込んでいた人数より増となったため、849千円を増額して事業を実施した。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
妊婦健診に係る渡航費助成	目　標	(　16名　)	(　12名　)	(　　)	(　　)
	実　績	14名	23名		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明	今年度の妊婦渡航補助については、当初想定の12名に対し、11名増の23名に対し補助を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
妊婦健診に係る渡航費助成：１２名	目　標	(　0回　)	(　16名　)	(　12名　)	(　　)	(　　)
	実　績		14名	23名		
【参考指標】妊婦平均受診回数	目　標	(　0回　)	(　6回　)	(　10回　)	(　　)	(　　)
	実　績		2.4回	6.5回		

進捗状況説明	妊婦平均受診回数については、昨年度平均2．4回に対し、今年度は平均6．5回と2．7%の増である。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本事業の実施により、今まで実費で、島外の産婦人科を受診していた妊婦の皆さんの負担軽減が図られたことによる、若い生産世代への波及が見込まれることから、定住人口の増加に向け出産後の乳児及び育児健診等の助成についても検討する必要がある。	妊婦健診を受診にあたって、妊婦のさらなる安全を確保するため、妊娠後期にあたっては、付添人が必要となるので、その助成についても検討する。

今後の取り組み方針

平成26年度も本事業を継続して実施するとともに、今後は、本事業により波及が見込まれる生産世代が安心して出産、育児等が行える施策を検討する。
例えば既存事業のこども医療費助成事業の対象こどもの年齢を拡充するなど検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,849	2,849	2,279	570	0

伊平屋村
2，849千円

→ 負担金補助金及び助成金
2，849千円

→ 妊婦検診対象者
2，849千円

（妊婦健診渡航費にかかる助成金補助
23名）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	受診の確認は親子健康手帳等で確認を行っているので、用途外の使用はないと考えられる。 また、助成を受けるために役場窓口へ申請するため、申請時に併せて保健師による保健指導等も行えることから、妊婦の体調管理等にきめ細かな指導体制がとれる。 本助成金は離島の特殊事情により、受診のため1泊2日で本島に行かなければならず、地域格差を是正するためのものであり、受益者負担は妥当であると考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－③	慢性疾患児童等通院時渡航費助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(11)－イ 生活環境基盤の整備及び教育･医療･福祉における住民サービスの向上
担当部課名	住民課	事業実施(予定)年度	平成25年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容

専門医療健診の受診促進のため、通院に要する船賃、宿泊費等を助成する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,160				
	(b)予算現額	189				
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,971				
	(d)前年度繰越額	0				
	A. 計(b+d)	189				
B. 執行済額		189				
うち交付金充当額		151				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：実績値において当初見込んでいた人数より減となったため、補正により減額し執行した。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度
慢性疾患児童等通院時渡航費助成：8名(親同伴)×12回	目　標	(　0回　)	(　8名　)	(　　)	(　　)
	実　績		1名		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：当初予定では12名の利用を想定していたが、申請者が小児慢性特定疾患の認定を受けている者1名にとどまり、その他島外で治療のため通院を要する者の申請がなかったため、減となった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(　年度)
慢性疾患児童等通院時渡航費助成：8名(親同伴)×12回	目　標	(　0回　)	(　8名　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績		1名			
【参考指標】	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：当初計画では、8名×12回を想定していたが、実績では申請者が小児慢性特定疾患児の認定を受けているもの1名×11回となり、減となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本事業の実施により、島外の専門医療機関での通院を余儀なくされていた者の負担軽減が図られたことにより、必要な医療を適切に受けることができるようになった。しかし、申請者が小児慢性特定疾患児の認定を受けたものだけにとどまったことにより大幅な減となった。	適切な医療を受けることの理解を深め、中学卒業と同時に親もとを離れる子どもたちを完治させることに努める。 そのため、当該事業を推進するにあたり、当該事業の広報誌への掲載、及び乳幼児健診等での保護者への周知、並びに学校保健関係者、村内医療機関への協力を呼び掛ける。

今後の取り組み方針

適切な医療を受けることへの理解を深め、当該事業を推進し、継続的な実施を行う。また、本事業の効果的な推進にあたっては、広報誌への掲載、乳幼児健診等での周知、学校保健関係者並びに村内医療機関への協力を呼び掛ける。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
189	189	151	38	0

伊平屋村
189千円
→ 負担金補助金及び助成金 189千円
→ 慢性疾患児童等通院対象者 189千円
（小児慢性特定疾患等の治療のための通院に係る渡航費助成）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	受診の確認は親子健康手帳等で確認を行っているので、用途外の使用はないと考えられる。 本助成金は離島の特殊事情により、受診のため1泊2日で本島に行かなければならず、地域格差を是正するためのものであり、受益者負担は妥当であると考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－④	介護福祉士育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(3)－ア 高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らせる環境づくり
担当部課名	住民課	事業実施(予定)年度	平成２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9
事業内容	高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの充実強化を図るため、介護福祉士の資格者を育成するための養成講座を行う。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,000				
	(b)予算現額	999				
	(c)増減額(b-a)	▲1				
	(d)繰越額	－				
	A．計(b+d)	999				
B．執行済額		999				
うち交付金充当額		799				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を見て、適正であったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H24活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
介護保険ヘルパー資格(2級)養成講座開催	目　標	1講座		(　　)	(　　)
	実　績	1講座			

達成状況説明	
	平成26年1月28日から2月26日までの期間に、実質16日間にわたり介護職員初任者研修資格(旧介護ヘルパー2級程度)取得を目的とした講座を実施した。村内から7名の参加が有り、事業計画の目標は達成された。

成果目標(指標)及び進捗状況

H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(28年度)
･介護保険ヘルパー資格(2級)養成講座開催：10名 ･講座開催後の資格取得者　5名	目　標	(　　)	1講座 取得5名	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績		1講座 取得7名			
					(　　)	(　　)

進捗状況説明	
	介護職員初任者研修資格(旧介護ヘルパー2級程度)取得を目的とした講座を実施した。村内から7名の参加が有り、全員が資格を取得でき、事業計画の目標は達成された。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本事業により7名の介護職員初任者の有資格者が誕生した。しかし、今後の展開として高齢化に対応し、取得した資格を生かした雇用の創出が必要であり、社協や行政で行っている地域支援事業等の担い手として活躍してもらう素地ができた。	次年度には介護保険の大幅改正が見込まれており、地域支援事業のさらなる拡充が必要となっており、介護分野の有資格者の必要性がさらに高まると思われる。雇用の拡大によってOJTとしてもさらに育成･スキルアップを図っていきたい。

今後の取り組み方針

現在、資格取得者の雇用については、同交付金事業により高齢者福祉施設の整備が見込まれることから、雇用の創出が期待できる。さらに上記のように地域支援事業の拡大、高齢化の進展によりさらなる需要の拡大が見込める。OJTにより取得した資格のスキルアップやさらなる資格取得希望者の拡大を目指していきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
999	999	799	200	0

伊平屋村
999千円

→ 委託料 999千円

→ （株）ニチイ学館 999千円

（介護職員初任者研修資格取得講座の開設委託料）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目･使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○支出先の選定方法については、指名入札をし、決定しており、適正に行われている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－⑥	地域自立支援推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(7)－ア 県民の社会参加活動の促進と協働の取組の推進
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容

行政と住民が協働して行う島づくりの体制を構築するため、住民主導型のワークショップの開催や、課題抽出･解決策の検討、行動計画の策定を支援した。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	8,000	3,000			
	(b)予算現額	2,837	2,998			
	(c)増減額(b-a)	▲ 5,163	▲ 2			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	2,837	2,998			
B．執行済額		2,837	2,998			
うち交付金充当額		2,269	2,398			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			

予算の状況の説明

･地域住民を対象としたワークショップの実施については民間コンサルタントへの委託を行い、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
地域自立支援推進実施計画策定	目　標	(　)	(　計画策定　)	(　)	(　)
	実　績		計画策定		
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明

地域住民とのワークショップによる現状聞き取り及び地域の将来像について話し合いを実行可能な範囲で計画に反映させ、時代の変遷とともに希薄化が懸念される地域住民による「自助･共助･公助」の役割について地域住民のニーズにあった形の地域自立計画を策定した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	27年度	目標値(28年度)
地域自立支援推進実施計画策定	目　標	(　0回 (0回)　)	(　)	(　計画策定　)	(　)	(　)
	実　績			計画策定		
	目　標			(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明

計画策定により地域住民の行動計画や地域の諸計画の遂行が具体化されることにより住民の地域行事等への参加が促された。
また、今まで、地域行事への参加率の悪かった住民にも地域内でのコミュニケイションが図られるようになり参加率も向上してきた。

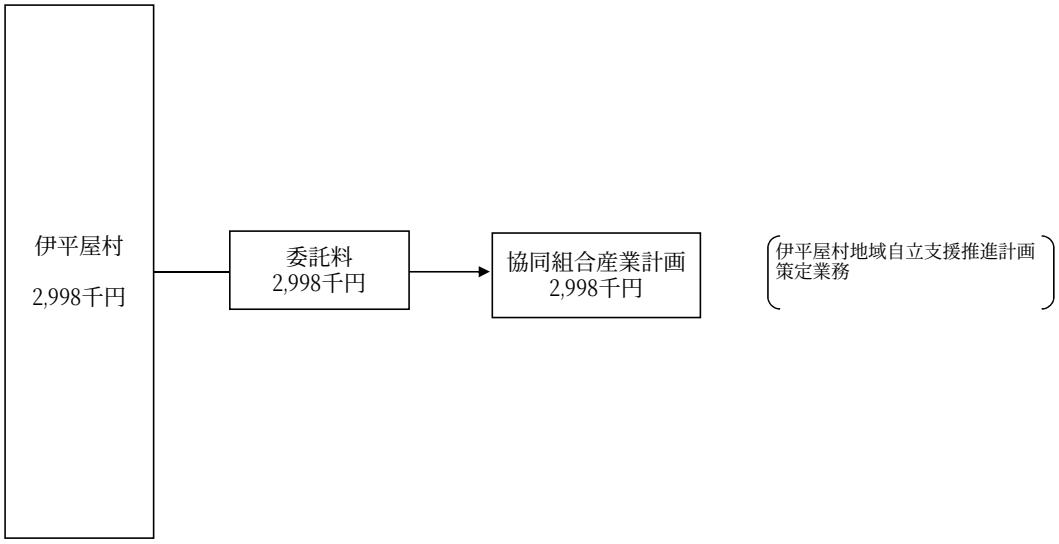
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本事業の取組によって明らかになった課題を本年度目標として、地域自立計画の策定を目指し、各集落の各世代間のワークショップ等を行い地域で生じる諸問題の打開策を検討し計画策定を行った。 課題 ①地域内での住民同士の確執等によるコミュニケイションの欠落 ②老人世帯の増加による地域ボランティアへの参加困難 ③行政サービスの向上により今まで地域で行ってきた行事及び作業等への意識変化	解決策として以下の対策を講じることとする。 ①世代別、団体別（子ども・青年・婦人・壮年・老人会等）によるワークショップの開催や、研修、講演会等の実施と地域リーダーの育成 ②世代間交流を推進するための集落行事の再興 ③男女共同参画を推進するための居場所づくりや役割分担の設定 ④集落単位による自治機能の強化 ⑤コミュニティビジネス等目標とテーマを明確化した協働作業、協働事業の実施 ⑥集落総動員による伝統文化、伝統祭祀の復興

今後の取り組み方針

今後の事業展開として、各集落のが地域の課題を自己のものと捉え、主体的に課題解決と行動評価を行えるような体制づくりを支援する。
具体的には各集落が主導的に行う「集落再生計画」の策定を専門家や行政が支援するとともに、取組への企画運営について助言を行う。
関連する他施策との相乗効果を図るため、総体的な協議の場を設置し、情報共有化を進めるとともに各種研修やワークショップ、講演会等の開催を支援する。
行政にたよる地域性の改革をするため、行政に頼らない自治運営をする先進地視察や先進地から講師を招き意識の向上を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,998	2,998	2,398	600	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○計画策定業務については、本村の第4次総合計画の策定を行い地域住民の信頼及び地域の雄実情を深く理解する協同組合産業計画と随意契約を締結した。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－⑦	集落環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(7)－ア 県民の社会参加活動の促進と協働の取組の推進
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成２５～２９年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9
事業内容	地域住民による自助、共助、公助の仕組みづくりを推進するため、集落環境整備計画の策定と協働による主体的な取り組みについて助成を行う。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,000				
	(b)予算現額	3,000				
	(c)増減額(b-a)	▲ 2,000				
	(d)繰越額	－				
	A．計(b+d)	3,000				
B．執行済額		3,000				
うち交付金充当額		2,400				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初計画1地区1，０００千円で5地区を想定していたが、集落環境調査に時間を要し実施計画の作成が遅れたことで、不足の期間が生じたため補助金の減額をした。				

活動目標(指標)及び達成状況

H24活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
集落環境整備調査環境整備	目　標	（　5集落　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	5集落			
集落環境整備		（　5集落　）			
		5集落			
達成状況説明	各集落で環境整備調査を行い整備計画を作成した。しかし、整備箇所の優先順位等集落内での協議に不足の時間を要し実施が遅れた。整備計画では各集落5カ所程度の整備を見込でいたが、2カ所から3カ所の整備になった。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(28年度)
集落環境整備調査環境整備	目　標	（　0　）	（　5集落　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		5集落			
集落環境整備			（　5集落　）		（　）	（　）
			5集落			
進捗状況説明	今年度整備した箇所については、各集落の環境美化及び観光に寄与する拝書等の安全対策としてハブ等の危険生物が出没する箇所の周辺整備等を中心に実施、それに伴い観光客等を含む地域住民の安全、安心の確保が図られた。					

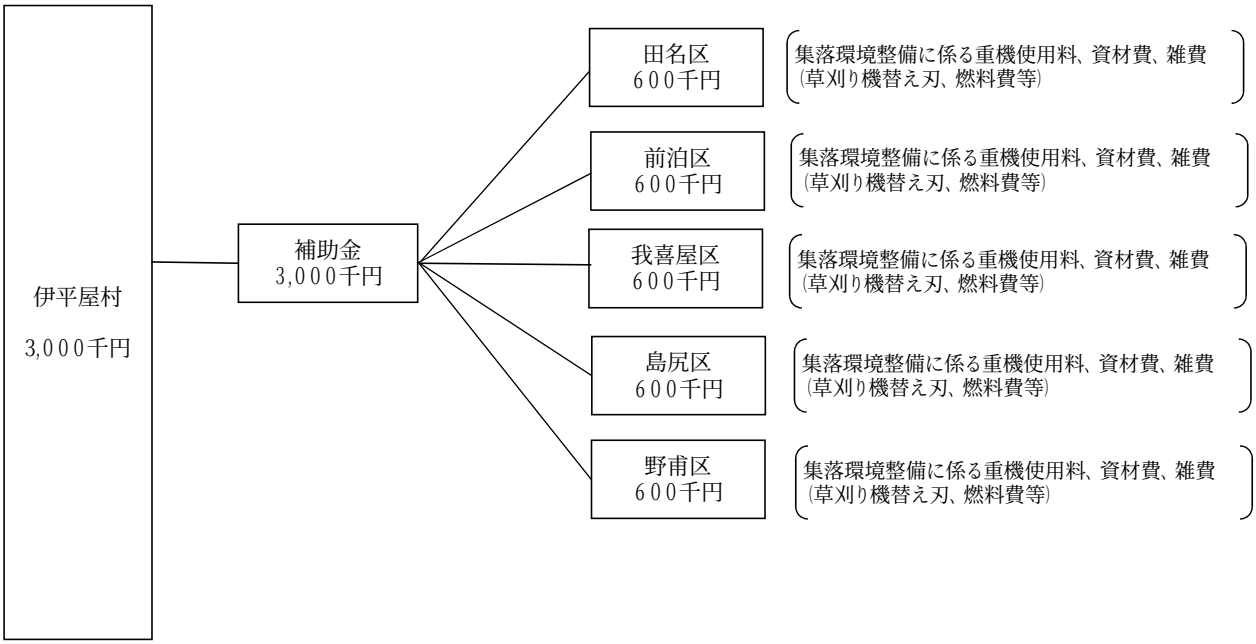
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	環境整備箇所の調査で年間整備計画を策定し実施する計画であったが、計画書の作成に遅れが生じ、環境整備に影響がでた。また、住民な参加を促す活動がうまくいかず住民の参加が伸びなかった。しかし、進捗状況でも説明した、危険箇所等の環境整備で地域住民の意識の変化は見られた。	今年度の集落環境整備については、地域住民の協働、自助努力の意識がまだ薄いことから次年度へ向けて、整備計画の充実、地域住民が参加しやすい地域コミュニティの向上を図る必要がある。

今後の取り組み方針

今年度は事業初年度ということもあり、各集落の環境整備につては地域住民の協働の意識が薄く参加が少ない状況であった。しかし、次年度はさらに整備計画の充実を図り、地域コミュニティの向上による地域活性化及び集落環境づくりを推進していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,000	3,000	2,400	600	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○受益者負担については、各集落において補助金以上の事業設定がなされており、補助金での対応分以外を集落で負担していることで妥当であると考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－⑧	自動車航送コスト負担軽減事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(11)－ア
					交通･生活コストの低減
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容	島と島外を結ぶ唯一の交通手段である村営フェリーにおいて、特に移動の大きな支障及び住民生活を圧迫する要因となっている自動車航送運賃コストを軽減するため、その一部を助成する。
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	13,333	22,857			
	(b)予算現額	4,235	37,902			
	(c)増減額(b-a)	▲ 9,098	15,045			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	4,235	37,902			
B. 執行済額		4,235	37,902			
うち交付金充当額		3,388	30,321			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			

予算の状況の説明：想定していた自動車航送台数の大幅な増により、当初予算より15,045千円増額補正した。なお当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
自動車航送運賃の低減	目　標	（　支援実施　）	（　支援実施　）	（　）	（　）
	実　績	支援実施	支援実施		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：沖縄本島と島を結ぶ唯一の交通手段であるフェリーにおいて、車両航送運賃の負担軽減を行った。3～4mの車両については往復で9，630円、4～5mの車両は往復で11，910円の補助を実施し住民の生活コストの低減に寄与できた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
自動車航送運賃の低減	目　標	（　）	（320台）	（350台）	（　）	（　）
	実　績		427台	3,772台		
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：本事業の実施により、医療機関への通院や冠婚葬祭等の諸行事、その他島外での教育関係の大会への参加等、沖縄本島との行き来が気軽に出来るようになり、住民の生活コストの低減及び生活圏の維持、拡大がなされ離島苦の解消に寄与できた。当初3,240台を目標として設定したが、事業実施により3,772台と目標を上回ることが出来た。　*成果目標で350台と誤記してしまいました。正確には3240台となります。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	事業の実施により、土･日、祝祭日等休日になると、沖縄本島へ出かける住民が増えたため、前泊港及び今帰仁村運天港において車両の乗船に時間を要し、フェリー出航時刻がたびたび遅れることがある。	車両を航送する場合、車両航送運賃負担軽減申込書の記入と離島住民割引運賃カードを切符購入時に提出しなければならないが、多くの住民が乗船直前に切符を購入するため、窓口が混雑し乗船に支障をきたしている。車両を航送する場合は出航時刻の30分前までに切符を購入し、乗船場所で待機するよう周知する。

今後の取り組み方針

休日や祝祭日には、多数の住民が車両を航送することが予想されるため、村内各売店や事業所に申込書を設置し、事前に記入するよう呼びかけ、切符購入窓口での混雑時間を短縮し、乗船がスムーズに行えるよう改善する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
37,902	37,902	30,321	7,581	

伊平屋村 37,902千円 → 補助金 37,902千円 → 伊平屋村船舶運航事業者 37,902千円（住民への自動車航送運賃低減相当額に係る補助金）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目･使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○負担軽減前の航送運賃と軽減額との差額を住民に負担してもらっている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－⑨	伊平屋村地域水道ビジョン策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(11)－イ 生活環境基盤の整備及び教育･医療･福祉における住民サービスの向上
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度	平成２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容

村の重要なライフラインである水道水について、今後の交流人口の増加への対応や緊急時における危機管理に対応するため、水道に関する課題と分析評価を行い、将来像や目標を設定し、安全な飲料水の確保に努める。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,000				
	(b)予算現額	3,833				
	(c)増減額(b-a)	▲ 167				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	3,833				
B. 執行済額		3,833				
うち交付金充当額		3,066				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%	#DIV/0!			

予算の状況の説明：指名競争入札により執行したことで、167千円が入札残となり減額した。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
地域水道ビジョン策定業務	目　標	（　策定業務　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	策定業務			
水道に関する諸調査(地域の安定量等の調査)	目　標	（　調査業務　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	調査業務			

達成状況説明：村の重要なライフラインである水道水について、今後の交流人口の増加への対応や緊急時における危機管理に対応するため、水道に関する課題と分析評価を行い、将来像や目標の設定、安全な飲料水の確保に関する計画書の策定ができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
地域水道ビジョン策定業務	目　標	（　）	（策定業務）	（　）	（　）	（　）
	実　績		策定業務			
水道に関する諸調査(地域の安定量等の調査)	目　標	（　）	（調査業務）	（　）	（　）	（　）
	実　績		調査業務			

進捗状況説明：安定的に安心な水を供給すること実現するために生活ライフラインの一つとして水道事業を中･長期的な視野で方向性を明らかにすることができ、今後の運営基盤の強化において、最適事業規模の確保、技術者の育成･確保、計画的･効率的な施設設備の更新を行っていけるようにする。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本計画の実施については、今後予想される人口の増加及び交流人口等の増加への対応及び効率的な施設運営等が予想される。 また、施設の対応年数や老朽化が著しいところもあり、優先的に更新や強化を行う必要がある。	計画的に更新を行うためにも現在の状況を把握し、漏水、破損や水道事業の情報提供を定期的に実施し、村民や　入域客への啓蒙活動を行う必要がある。

今後の取り組み方針

平成25年度に策定を行い、中長期的に安心で安定的な供給を行うためにも計画的に施設設備の更新を展開し、漏水や老朽化等の調査を実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,833	3,833	3,066	767	

伊平屋村
3,833千円
→
委託料
3,833千円
→
(株)隆盛コンサルタント
3,833千円
（伊平屋村水道ビジョン策定業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は指名競争入札により選定した。 ○費目･使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－⑩	遺体安置設備整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(11)－イ 生活環境基盤の整備及び教育･医療･福祉における住民サービスの向上
担当部課名	住民課	事業実施(予定)年度	平成２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容

本村には遺体安置設備が無く、病死はもとより、突発的な事件、事故の際の遺体保管について支障をきたしていることから、遺体安置用の保冷庫を一基購入する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,500				
	(b)予算現額	2,047				
	(c)増減額(b-a)	▲ 453				
	(d)前年度繰越額	－				
	A. 計(b+d)	2,047				
B. 執行済額		2,048				
うち交付金充当額		1,638				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：当初計画より安価な価格で購入できた見積入札により2，047，500円で契約を締結し、入札残　452，000円となり予算補正により減額した。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
遺体安置設備整備	目　標	(　1基　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績	1基			
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：遺体安置設備として、遺体安置保冷庫を一基購入し伊平屋村火葬場に設置した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(　年度)
遺体安置設備	目　標	(　　)	(　1基　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績		1基			
【参考指標】	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：遺体安置設備の導入により、病死はもとより、突発的な事件、事故の際の遺体保管等の諸問題の解消が図られる。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	遺体安置設備の導入により、病死はもとより、突発的な事件、事故の遺体保管等の際、台風時等、天候による影響で搬送手段が断たれた場合に腐敗等の配慮に苦悩している現状にある為、諸問題の解消が図られる。	遺体安置設備の導入により、病死はもとより、突発的な事件、事故の遺体保管等の際、遺体安置を設置した事によって腐敗等を回避する上に衛生面で懸念される事項もクリアする事ができ設置後は予測不能な事態に備え、万全の体制で住民の生活を見守る事が期待できると考え、諸問題の解消が図られた。

今後の取り組み方針

高齢化社会の進展による需要の増加が懸念されることから、将来的に遺体安置保冷庫の個数の増加及び施設の改修等の比較検討等を計り、今後の施設整備計画が必要になる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,048	2,048	1,638	410	

伊平屋村
2,048千円

→

備品購入費
2,048千円

→

(株)開邦工業
2,048千円

（遺体安置用保冷庫の購入）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。県内で取り扱っている業者が2者しかないため見積依頼をかけて予算計上を行い、見積額の低い業者を選定（県内でも実績のある業者を選定したため妥当である。）
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－⑪	障がい者自立支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(3)－イ 障害のある人が活動できる環境づくり
担当部課名	住民課	事業実施(予定)年度	平成２５～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容	障害者自立支援としてＮＰＯ法人等の育成のための地域生活支援について委託を行う。
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,000				
	(b)予算現額	1,475				
	(c)増減額(b-a)	▲ 525				
	(d)前年度繰越額	－				
	A. 計(b+d)	1,475				
B. 執行済額		1,475				
うち交付金充当額		1,180				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		社会福祉協議会でサービス管理責任者に興味等がある対象者選定に時間を要したため7月からの事業補助となったため				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
サービス管理者責任の育成(村内社会福祉法人にて人材育成)	目　標	(　1人　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	1人			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：相談支援従事者初任者研修及びサービス管理責任者研修会を島外で受講した渡航費及び社会福祉協議会で雇用しながらスキルアップを目指すための補助金を交付し対象者1名の育成を図った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(　年度)
障害者福祉施設サービス管理者の育成	目　標	(　)	(　1人　)	(　)	(　)	(　)
	実　績		1人			
【参考指標】	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：対象者の育成を図った結果、サービス管理責任者の資格取得ができた。今後は障害者福祉施設での実務研修を島外で行い、サービス管理責任者の実務のスキルアップを目指す。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	村内社会福祉協議会で雇用しながら島外研修によって資格取得ができた。しかし、サービス管理責任者の実務的な研修が村内では受けられないため、島外障害者福祉施設で行う必要がある。	島外、社会福祉施設での実務研修を受けながら村内にあった障害者就労支援施設開設へ向け、障害者自立支援協議会で今後の展開等を協議、検討し、整備を計画的に実施していく必要がある。

今後の取り組み方針

平成２６年度はサービス管理責任者の実務研修を島外障害者福祉施設で行い、実務のスキルアップを目指しながら、村内での障害者就労施設の開設を目指し、自立支援協議会で具体的な計画及び方向性を見いだし検討を行い、就労支援施設の建設に向けた委託業務発注を行い、障がい者が安心して就労訓練等が出来るよう本事業の支援を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,475	1,475	1,180	295	

伊平屋村
1,475千円
→
負担金及び補助金
1,475千円
→
伊平屋村社会福祉協議会
1,475千円
（サービス管理者の育成）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目･使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 基本給は補助を行うが保険･諸手当等及び時間外勤務においては受益者負担とする。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５－①	伊平屋村防災行政無線施設（同報系）整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(4)－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(2)

事業内容	村内における安心･安全対策として、老朽化した防災行政無線システムをデジタル化することで、住民等への情報伝達を強化する為に実施する。親局設備更新、子局双方向通信化、全世帯戸別受信機運用、住民向け携帯メール配信等を実施し、情報伝達確度の向上を図る。
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	139,829				
	(b)予算現額	135,383				
	(c)増減額(b-a)	▲ 4,446				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	135,383				
B. 執行済額		135,383				
うち交付金充当額		108,306				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		予算139,829千円だったが、指名競争入札により135,383千円に減額した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
施設調査設計 システム構築 施設整備工事	目　標	（　一式　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	一式			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	個別受信機を、各世帯および事業所･学校･観光施設におよそ８４０個設置した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
デジタル防災行政無線施設整備完了（子局の整備等（村内全世帯、村内主要施設）	目　標	（　）	（整備完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		整備完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	個別受信機を、各世帯および事業所･学校･観光施設におよそ８４０個設置した。

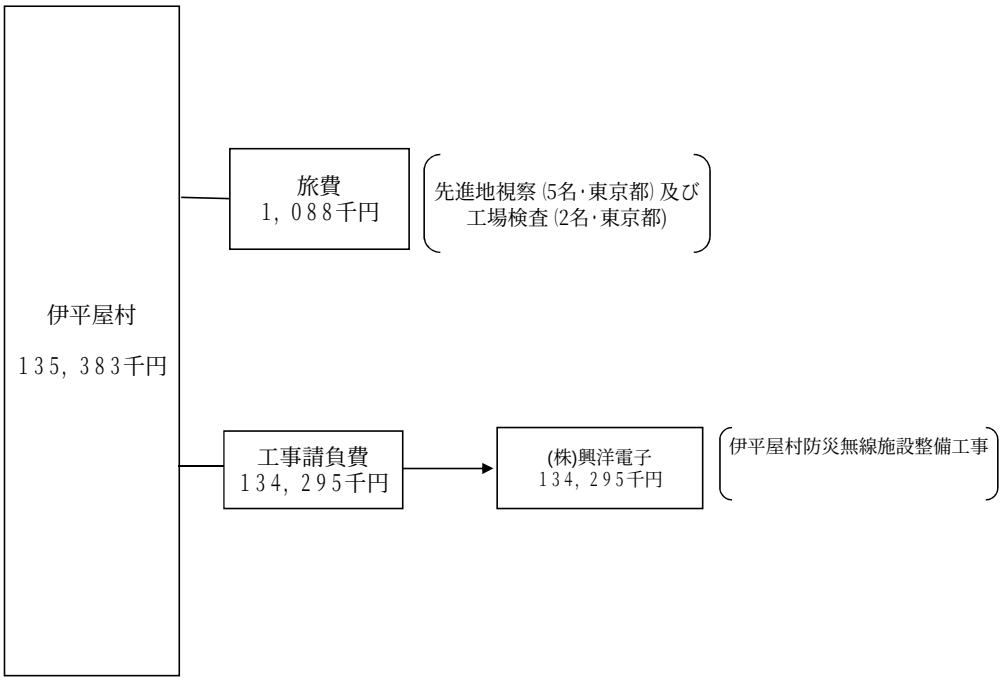
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本事業の実施に伴い、施設の老朽化問題の解消と災害発生時に的確な救済処置を迅速に指示伝達し、住民の生命の安全･財産の確保を図り、防災、救助、災害復旧に関する業務を迅速に遂行することが可能となった。	本事業の実施に伴いこれまで、施設の老朽化に伴う災害時の緊急放送等の諸問題が解消された。しかし災害時の停電等に対応する非常用の発電施設等の整備も進める必要がある。また、携帯端末などへの多様化配信をマニュアル化して誰もが分かるシステム作りが必要である。

今後の取り組み方針

防災無線の整備完了に伴い、緊急避難等の指示及び勧告の放送機能の強化が図られたが、災害時の安心安全に避難できる施設等の機能の強化も併せてを図っていく必要がある。また、情報公共コモンズ利用を積極的に行い災害情報の伝達に非常に有効であるため運用体制を構築する必要がある。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
135,383	135,383	108,306	27,077	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	支出先の選定方法は、競争指名入札で妥当と思われる。事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５－③	伊平屋村救急対応整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(4)－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成２５～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(2)
事業内容	小規模離島である本村は常備消防が無く、緊急時(特に救急搬送等)には代用車(公用車等)での対応を余儀なくされている状況である。その為、緊急(急患等)時の救命救急措置と緊急搬送を敏速に行うため救急車を整備する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	8,000				
	(b)予算現額	7,980				
	(c)増減額(b-a)	▲ 20				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	7,980				
B. 執行済額		7,980				
うち交付金充当額		6,384				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		県内に救急車の取り扱い業者が3者しかないことから、3者より、見積もりを徴した結果、当初計画より安価な価格で購入できたことにより予算が20千円減額となった。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
緊急搬送車(救急車)購入	目　標	(　1台　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	1台			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明	
	小規模離島である本村は常備消防が無く、緊急時(特に救急搬送等)には代用車(公用車等)での対応を余儀なくされていたが、本事業の導入により、緊急(急患等)時の救命救急措置と緊急搬送を敏速な対応ができている。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(　年度)
緊急搬送車(救急車)購入	目　標	(　)	(　1台　)	(　)	(　)	(　)
	実　績		1台			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明	
	備品購入により救急車を購入し、消防団の拠点である伊平屋村役場に配備した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	常備消防ではないため、本格的な救急装備はできないものの、最低限の設備の整備ができ、救急搬送時等における患者の安全安心の対応が向上した。しかし、常時救急対応のできる体制のもと、台風、季節風等の塩害による車体の腐食や、飛来物による破損を防ぐ対策も必要になる。	救急搬送車が新しく整備できたことにより、地域住民の生命の安全安心をサポートする施設整備が出来た。しかし、離島村の救急体制において、急患輸送におけるドクターヘリの到着までの対応に不可欠な救急救命士の育成が必要になってくる。

今後の取り組み方針

本年度救急搬送車の購入ができたことにより、救急対応が例年より敏速及び適切になったが、日常で救急車を保管する施設が台風や季節風による車体の腐植等が懸念されることから、次年度において保管庫の整備を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,980	7,980	6,384	1,596	

伊平屋村
7，980千円
→ 備品購入費 7，980千円
→ 沖縄トヨタ自動車(株) 7，780千円
（緊急搬送用救急車の購入）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	△	支出先の選定方法は妥当か。	本件における随意契約については、本村の財務規則において、指名等競争入札について5社以上の規程がある。　そのため、本事業で導入を目指す救急車については、車両の規格を有する業者及び装備品等において県内でも3社しか対応出来る業者が無いため3社から見積もりを徴し随意契約とした。 事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	